

2024年度 事業計画

1. 事業の概要について

(1) 顕彰事業（京都ヒューマン賞）

- ・地域の社会福祉、青少年の健全育成、男女共同参画の推進、生活環境・地球環境の整備等の分野で社会貢献活動をされ、顕著な功績をあげた京都と関わりのある（京都在住、活動の拠点や原点が京都にある等）個人や団体・グループを顕彰する。
- ・2024年度の京都ヒューマン賞の贈呈式は、2024年9月11日（水）の11:00～12:00 オムロン株式会社本社「みやこホール」にて開催予定。なお、懇親パーティーについては実施するかを改めて判断する。

(2) 助成事業

- ・当法人の事業目的に合致し、地域の社会福祉、青少年の健全育成、男女共同参画の推進、生活環境・地球環境の整備等の分野において、原則として京都府内で社会貢献活動を行う個人や団体・グループに対して、イベント開催時の経費の一部助成を行う。
なお、募集期間を定めた運用を行うこととする。
- ・準要保護教育援助受給世帯および生活保護家庭等に向けて食材を提供するフードバンク団体に対して、活動費の一部を助成する。
なお、募集期間を定めた運用を行うこととする。
- ・子ども食堂を開設・実施している団体に対して、年間利用人数に応じて助成上限金額を設定し、その範囲内で年間の利用人数実績を踏まえた（評価した）上で、年間運営費用の一部助成を行う。なお、FY24の上限金額については、FY22ベースに合わせるものとする。
また、募集期間を定めた運用を行うこととする。
- ・助成は、複数の外部有識者による助成適正評価、専務理事の同意意見、理事長の決裁により実施する。

(3) 奨学金事業

- ・京都府にゆかりがあり、自らの将来に対して強い志を持ち、学業を通しての成長と社会貢献に意欲のある学生を後押しすることを目的に実施。
- ・特色としては、給付型（返済不要）で他奨学金との併用も可とし、奨学生の大学卒業後の就職に制約を設けることはしない。
- ・奨学金給付採用者の決定は、外部有識者を含む選考委員が論文、面接の選考過程を経て、決定する。
- ・当面の間は毎年20名の採用を計画。奨学生1人に対し月額5万円（年額60万円）を大学在学の4年間（短大は2年間）給付する。

(4) 広報・宣伝活動

- ・当法人の事業内容について、ホームページ上での告知、マスコミ発表、Facebook や京都府のメーリングリストによる告知を継続するとともに、子ども食堂助成事業や奨学金事業については独自のパンフレットを作成し、関係先に配布する。

(5) 京都ヒューマン賞 贈呈式開催時期の変更

以下の経緯より 2024 年度の贈呈式は、従前の 6 月開催から 9 月開催に変更する。

- ・理事会、定時評議員会と合わせ、京都ヒューマン賞贈呈式（以下、贈呈式）を同日（6 月）に開催してきたが、日程を切り離すことにより、理事会、定時評議員会を時間の制約を受けることなく、しっかり議論することができる。
- ・審議内容の詳しい説明や確認により、理事、監事、評議員がよりオムロン基金への理解を深めることができるとともに、理事、監事、評議員の見識をオムロン基金の運営に反映させ易くなり、今まで以上に質の高いオムロン基金の事業運営を支えていただける。

との期待から、贈呈式の開催時期を別日にすることを決心した。

2. 法人運営費用について

(1) 収支計画について

(収入)

- ・基本財産の債券利金収入は、1 件 1,000 万円の債券が償還を迎え、現在買換えまで至っていないことから 194 万円の見込み。なお、償還された 1,000 万円は定期預金として保有。適切な債権があれば置換えを実行する。
- ・オムロン株式会社株式 20 万株の配当金として、6 月および 12 月にそれぞれ 1,040 万円ずつ、年間合計 2,080 万円の収入を見込む。
- ・奨学金使途としてオムロン株式会社からの寄付金 2,000 万円と賛助会員からの寄付金 600 万円の計 2,600 万円の寄付金収入を見込む。内 200 万円を 2024 年度の公益事業費用（奨学金として利用）として計上、残金 2,400 万円については、事業積立資産として繰入れる。また、2023 年度に事業積立資産に繰入れた使途奨学金として受けた寄付金 1,010 万円の内 1,000 万円を取崩し、2024 年度の奨学金として利用する。
- ・この結果、経常収益の見込みは、前年度予算比 730 万円増、前年度(見込み)比 650 万円増の 3,474 万円を見込む。

(支出)

- ・顕彰事業費（顕彰金、式典費用等）は、式典費の削減から、前年度予算比 150 万円減、前年度見込み比 146 万円減の 250 万円とする。顕彰テーマ数は昨年度同様 2 件を予定。
- ・助成事業の合計は、前年度予算比 50 万円増、前年度見込み比 133 万円減の 1,550 万円とする。一般イベント助成は前年度予算比 150 万円減、前年度見込み比 69 万円減の 150 万円とする。フードバンク助成は、前年度予算比 5 万円増、前年度見込み比同額の 400 万円とする。子ども食堂への助成金は、前年度予算比 150 万円増、前年度見込み比 64 万円減の 1,000 万円

とする。

- ・新規に立ち上げる奨学金事業については、1,200万円の助成金（給付金）を見込む。
- ・公益目的事業の管理費は、前年度予算比10万円増、前年度見込み比で50万円減の370万とする。
- ・この結果、公益目的事業費の合計は3,370万円となり、前年度予算比1,065万円増、前年度見込み比871万円増となる。
- ・法人会計の管理費は、給与負担金を2023年度は2人分としたところを1人分に戻すことなどから管理費合計としては、382万円となり、前年度予算比14万円減、前年度見込み比191万円減となる。
- ・経常費用の合計は3,752万円となり、前年度予算比1,050万円増、前年度見込み比で679万円の増となる。
- ・公益目的事業会計の収支相償については13万円の赤字、法人全体としては266万円の赤字の計画とする。一般正味財産の期末残高は、前年度末比279万円減の976万円となる。

(2) 資金調達および設備投資

当期間において、資金調達のための借入れや重要な設備投資（除却又は売却を含む）の予定はありません。